

## はじめまして 町の顔



ALT (外国語指導助手)  
アブラハム・アフザルさん

こんにちは！私の名前はアブラハム・アフザルです。周防大島町の小学校、中学校の新しいALT(外国語指導助手)です。アメリカのニューヨーク州の田舎出身で、大学では、日本の文化、宗教、文学について勉強をしました。

周防大島町は、住むのにとっても良い場所だと思えます。信じられないほど美しいです。出会う人は皆、とても親切です。私は、まだちょっとしかここで生活していませんが、島のいたるところに行つて、数多くのビーチで泳ぎました。日本語の勉強はしているのですが、残念ながらまだ話せません。私の願いとして、ユーモアと音楽を愛する気持ちをこの島の学生と分かち合いたいと思っています。

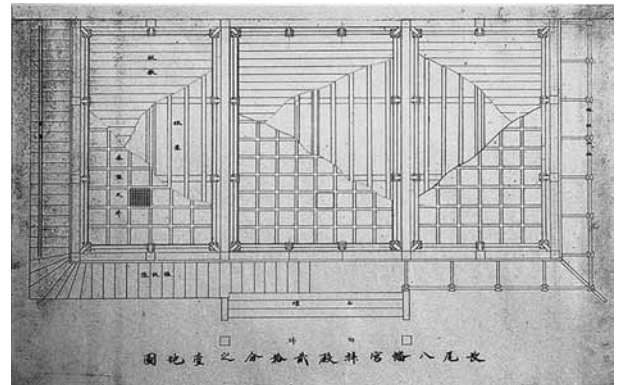
私はこの素晴らしい島で生活し、教えることができるという、とても特別なチャンスを得られたことに感謝するとともに、これから始まる生活の中で、多くの人々に出会うことを楽しみにしています。

## 27 周防大島の文化財

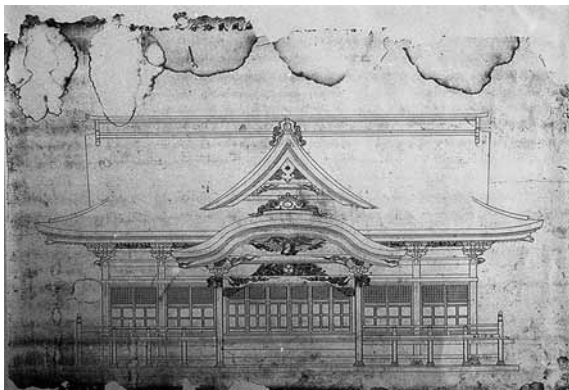
### 長尾八幡宮建築図面資料 (西安下庄)

旧東和地区の西方村・船越村・平野村・外入村・和田村より四国の山村の神社・仏閣・お堂・民家に大工職人として出稼ぎに行った人たちを、四国の人たちは長州大工と呼んだ。その普請数は優に300を超えると言われる。宮大工の腕前だけではなく、社殿を飾られた彫刻は長州大工特有のものがあつた。

大正5(1916)年に再建された長尾八幡宮にその当時、洋紙に描かれた建築図面19点が残され、そのうち門井宗吉製図と明記されたものが7点ある。竹を細く削つて墨で描いた神殿・中殿・拜殿の完成図面は、極細のボールペンで描いたようでその画力に驚嘆する。門井宗吉は旧西方村出身で友助・浅治郎に続く門井家三代目の宮大工で、弟の門井友祐と共に四国に渡り多くの社寺建築を手がけた。



▲長尾八幡宮拜殿貳拾分之壹地圖 (縦547×横790mm)



▲破風貳拾分之壹正面圖 (縦760×横975mm)

大正5年長尾八幡宮再建の棟札によれば、棟梁は安下庄田中村の今田忠蔵、後見役として門井宗吉、彫刻師として門井浅一と記されている。門井浅一は宗吉の次男で彫刻家として後に鳳雲を名乗った。後見役とは浅一の補佐監督をしたものであろう。後見役とは浅一の補佐監督をしたものであろう。後見役とは浅一の補佐監督をしたものであろう。後見役とは浅一の補佐監督をしたものであろう。

その設計並びに彫刻の画力は素晴らしいの一語に尽きる。長尾八幡宮に残された門井宗吉の建築図面は周防大島の建築文化を伝える貴重な資料である。平成21年3月に周防大島町指定文化財に指定された。捨てないで残しておいてくれた祖父と父に感謝したい。

《周防大島町文化財保護審議委員・長尾八幡宮宮司 長尾健彦》